

特別企画：「食品主要 195 社」価格改定動向調査—2023 年 4 月

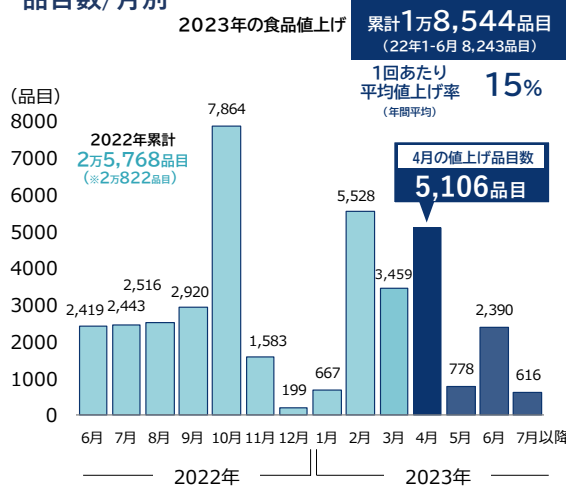
「値上げの春」4 月は 5100 品目 5 月以降も 4000 品目近く対象 「年 2 万品目」間近、値上げは今年秋まで長引く予想

小麦価格の抑制的引き上げ、影響注視「断続的値上げ」秋まで長引く見込み

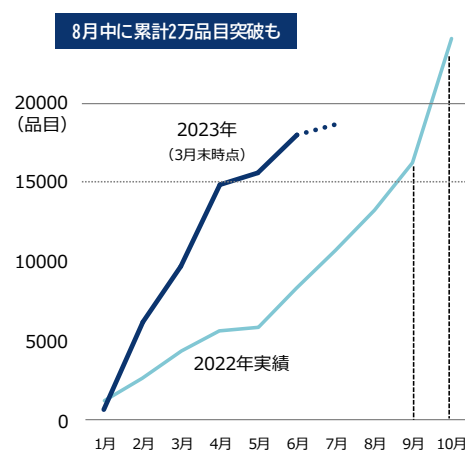
2023 年の食品値上げは、判明ベースで 4 月中の 2 万品目超えがほぼ確実となる。これまでのコスト増加分における価格転嫁は十分にできていないほか、鶏卵や海苔、電気代など新たな値上げ圧力も出現しており、頻繁で断続的な価格改定の動きは今秋 10 月頃まで長引く可能性がある。

今後は、5%に抑制された「輸入小麦」の価格改定に伴い、パンや麺製品の価格が引き上げられるかが焦点となる。特にパン製品は、小麦以外にもショートニングや乳製品、砂糖類など原材料の多くで価格が上昇しており、菓子パン類を中心に昨年 7 月以来の大規模な値上げが年内にも行われる可能性が残る。物流コストや容器代などのコスト増に直面している、小型 PET ボトル製品や缶ビール・缶 RTD 飲料製品の値上げも注視したいポイントとなる。

2023 年の食品値上げ（3 月 31 日 12 時時点） 品目数/月別



実施ベースでの値上げ品目数動向



[注] 調査時点の食品上場105社のほか、全国展開を行う非上場食品90社を含めた主要195社の2022-23年価格改定計画。実施済みを含む。品目数は再値上げなど重複を含む

[注] 品目数および値上げは、各社発表に基づく。また、年内に複数回値上げを行った品目は、それぞれ別品目としてカウントした。値上げ率は発表時点における最大値を採用した。なお、価格据え置き・内容量減による「実質値上げ」も対象に含む

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 かみにし とまひろ 上西 伴浩

【問い合わせ先】 いじま だいすけ 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

「値上げの春」4 月は 5000 品目超え、前年比 4 倍の「値上げラッシュ」

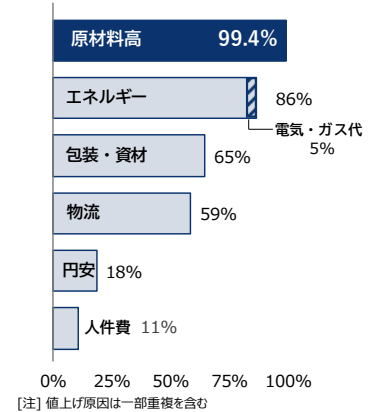
4 月は今年 2 番目の値上げラッシュとなる。2023 年における家庭用を中心とした飲食料品の値上げ品目数は、3 月末までの判明ベースで累計 1 万 8544 品目に上った。このうち、4 月 1 日をもって 23 年以内に値上げ済みとなる食品は累計 1 万品目を超えた。また、今年 1-6 月までの累計品目数（1 万 7928 品目）は、前年と同じ時期（22 年 1-6 月：8243 品目）に比べ 2 倍を超えるペースで推移している。

2023 年 4 月単月の値上げ品目数は、加工食品を中心に 5106 品目だった。前年同月（1204 品目）の 4 倍超に上るほか、今年 2 月以降 3 カ月連続で前年を上回った。5 月以降も 2022 年を上回る水準の値上げが予定されており、5 月は前年比 3 倍、6 月には前年にほぼ並ぶ 2390 品目の値上げが予定される。7 月以降も、4 月に行われる輸入小麦の価格改定、電気代の引き上げなどを背景に断続的な値上げが続く。値上げは今春を一旦ピークとしながらも増加ペースは早まっております、4 月中にも計画ベースで年内値上げ累計 2 万品目を突破するとみられる。

2023 年に予定される値上げ 1.8 万品目のうち、原材料高が理由となったものは 99% 以上（品目数ベース）と、ほぼ全てで原材料高が理由にあげられた。また、供給不足が続く鶏卵価格高騰を理由とした値上げ、人件費上昇による値上げも目立ってきた。電気代などのエネルギー代や物流コスト、輸入コスト上昇も続き、製品価格へ緩やかに反映する動きが引き続き目立っている。

2023 年に予定される値上げ 1.8 万品目のうち、原材料高が理由となったものは 99% 以上（品目数ベース）と、ほぼ全てで原材料高が理由にあげられた。また、供給不足が続く鶏卵価格高騰を理由とした値上げ、人件費上昇による値上げも目立ってきた。電気代などのエネルギー代や物流コスト、輸入コスト上昇も続き、製品価格へ緩やかに反映する動きが引き続き目立っている。

2023 年の値上げ原因別



パック牛乳など「乳製品」単月で過去最多、前年に続く 2 度目の大規模値上げ

2023 年 4 月の値上げで最も多い食品分野は加工食品で 2273 品目となり、単月全体の約 4 割を占めた。ハム・ソーセージなど肉製品のほか、チルド麺製品、冷凍食品などで値上げが行われる。パック牛乳など乳製品（768 品目）は、単月としては前年 11 月を上回り 22 年以降で最多だった。酒類・飲料（791 品目）も、缶ビールなど大規模値上げが行われた 22 年 10 月（3778 品目）に次ぐ多さで、輸入ウイスキーや甲乙類焼酎などの値上げが中心となっている。調味料（972 品目）は、だし製品に加えてしょうゆやマヨネーズ、ポン酢などの各調味料製品で値上げが実施される。

2023 年通年では、6 月に即席麺だけで 200 品目を超える値上げが行われる加工食品（9023 品目）が最多で、前年累計（9468 品目）を上回り年間累計 1 万品目を超える可能性がある。

主な食品分野 価格改定の動向

【注】()内は2022年の実績値。22年・23年ともに計195社の値上げ品目数

	加工食品	調味料	酒類・飲料	菓子	乳製品 (牛乳・ヨーグルト)
品目数	9,023 (9,468)	4,458 (5,953)	2,513 (5,063)	1,312 (1,967)	829 (1,225)
1 回の平均値上げ率	16% (14%)	10% (14%)	12% (14%)	7% (12%)	8% (10%)
背景	食肉・水産品などの価格高騰 物流費の上昇 円安による輸入コスト増	砂糖、食用油の価格高騰 包装資材費の上昇 鶏卵の供給不足・価格高騰	円安による輸入コスト増 缶・ペットボトルなど包装資材費の上昇	食用油の価格高騰 物流費の上昇 エネルギーコストの上昇	原材料価格の上昇 包装資材・運輸コストの上昇 円安による輸入コスト増
主な食品	冷凍食品、水産缶詰 シリアル食品 チルド麺・カップ麺	醤油、ソース、ケチャップ 調理用ワイン だし製品	輸入ワイン・ウイスキー類 焼酎・RTD飲料 エナジードリンク・豆乳	米菓・アイスクリーム製品 スナック・チョコレート菓子 ゼリー製品	パック牛乳 ヨーグルト・乳酸菌飲料 乳幼児用粉ミルク類